

2017－2020 年度健康スポーツ科学科科学研究費採択一覧

- 1) 研究課題名：超急性期災害看護のレジリエンスを引き出すアクティブ・ラーニング教材（基盤研究C：研究代表者：庄司直人）2016年8月26日～2018年3月31日
- 2) 研究課題名：オプティカルセンシング技術を用いた高齢者の介護予防スクリーニングシステムの開発（基盤研究C：研究代表者：竹島伸生）2017年4月1日～2020年3月31日
- 3) 研究課題名：海外につながる子ども達の表現力・協働力を促進するドラマワークショップの開発（基盤研究C：研究代表者：松井かおり）2017年4月1日～2020年3月31日
- 4) 研究課題名：オノマトペの音声感性情報を活用した幼児のための道徳教育オーディオブックの開発（基盤研究C：研究代表者：藤野良孝）2018年4月1日～2021年3月31日
- 5) 研究課題名：魔法の言葉で運動能力がアップする?!「オノマトペ」で秘めたる力を引き出そう！（ひらめき☆ときめきサイエンス：研究代表者：藤野良孝，分担者：庄司直人，井上元輝，安達詩穂）2018年
- 6) 研究課題名：閉経後中高年女性の骨を、低回数ハイインパクトレジスタンストレーニングで強くする（基盤研究C：研究代表者：加藤 尊，分担者：今泉佳宣）2018年4月1日～2021年3月31日
- 7) 研究課題名：「お稽古場」およびダンススタジオにおけるレスンプログラムの実態（若手研究：研究代表者：安達詩穂）2019年4月1日～2021年3月31日
- 8) 研究課題名：赤外線深度センサーを用いた高齢者の介護予防システムの開発（基盤研究C：研究代表者：竹島伸生）2020年4月1日～2023年3月31日
- 9) 研究課題名：運動様式の違いが若年期アスリートのスクレロチン分泌に及ぼす影響（基盤研究C：研究代表者：本田亜紀子）2020年4月1日～2023年3月31日
- 10) 研究課題名：海外に繋がる子ども達と日本人児童生徒の共学をめざした言語活動の開発（基盤研究C：研究代表者：松井かおり）2020年4月1日～2023年3月31日

2018－2020 年度健康スポーツ科学科研究助成一覧

【宮田研究奨励 A】

- 1) アルペン・チェアスキーでの連続ターンのバイオメカニクス的研究（研究代表者：菅嶋康浩）2018年4月～2019年3月
- 2) 青年期男女における運動様式の相違が大腿骨骨量・骨形状に及ぼす影響（研究代表者：本田亜紀子）2018年4月～2019年3月（延長）
- 3) ラグビーチームの組織変革に関する実践知の探究（研究代表者：庄司直人）2018年4月～2019年3月
- 4) ダンスの種類別教育効果の比較に関する実験的研究（研究代表者：安達詩穂）2018年4月～2019年3月（延長）
- 5) 異なる振幅に対するチェアスキーのターン制御のバイオメカニクス的研究（研究代表者：菅嶋康浩）2019年4月～2020年3月
- 6) スポーツチームで縦横無尽のパワー行使を実現するプログラムの開発（研究代表者：庄司直人）2019年4月～2020年3月
- 7) 小学生柔道選手を対象とした浮き趾の実態と関連要因に関する研究（研究代表者：窪田友樹）2020年4月～2021年3月
- 8) 若年女性の貧血の発生頻度と鉄・タンパク質摂取の関係について（研究代表者：塚中敦子）2020年4月～2021年3月

- 9) 災害時小児周産期医療のノンテクニカルスキルのトレーニング方法と評価方法の開発 (研究代表者: 庄司直人) 2020年4月～2021年3月
- 10) アルペンチェアスキーのターンのバイオメカニクス的研究 (研究代表者: 菅嶋康浩) 2020年4月～2021年3月

【宮田研究奨励c】

- 1) 現代スポーツ文化に内在する「倫理性」の哲学研究 (研究代表者: 尹 熙喆) 2018年4月～2019年3月

2017-2020年度健康スポーツ科学科共同研究・受託研究一覧

- 1) 共同研究 (機関: 栗田工業株式会社): ラグビーチームの組織変革に関する実践的研究 (研究代表者: 白石 豊, 共同研究者: 梶山俊仁, 藤野良孝, 庄司直人, 井上元輝, 高橋篤史) 2018年4月～2020年3月 (延長)
- 2) 共同研究 (機関: ハワイ大学マノア校): ハワイ在住高齢者の客観的自立度評価指標の作成とエクササイズによる高齢者の健康づくりプロジェクト研究 (研究代表者: 竹島伸生, 共同研究者: 山本英弘, 高橋篤史, 禿 隆一) 2019年2月～2021年3月
- 3) 受託研究 (機関: セノー株式会社): モトタイルを使用した認知機能と身体機能の向上に関する研究 (研究代表者: 竹島伸生) 2018年7月～2021年3月
- 4) 厚生労働科学研究費補助金 (機関: 公益財団法人大原記念労働科学研究所): 経済情勢等労働災害発生動向に及ぼす影響等に関する研究: 多変量時系列解析による数的モデルの開発と検証 (研究分担者: 庄司直人) 2018年4月～2019年3月

科学研究費・研究助成概要

【科学研究費最終報告書概要】

- 1) 超急性期災害看護のレジリエンスを引き出すアクティブ・ラーニング教材 (研究代表者: 庄司直人)

本研究では、我が国の災害発生時により多くの人々に適切な医療を提供することを可能にする、看護師、看護組織の臨機応変な対応力を引き出す学習ツールの開発をめざした。東日本大震災、福島原発事故、岩手豪雨、関東・東北豪雨、地下鉄サリン事故の際に主に病院にて災害対応に従事した医師・看護師・保健師へのインタビュー調査のデータをもとに、災害発生から48時間(超急性期)の混乱し高い不確実性のなかでも効果的な対応を引き出すために必要な要因を引き出した。その知見を活用し、特に、CBRNE災害(生物、化学、放射線、核、爆発物による災害)発生時の臨機応変な対応力を引き出すトレーニング方法が開発された。

- 2) オプティカルセンシング技術を用いた高齢者の介護予防スクリーニングシステムの開発 (研究代表者: 竹島伸生)

【研究開始当初の背景】高齢者の自立度評価は、Functional Independence Measure (FIM)などに代表されるように移乗、トイレ動作、歩行、入浴、階段歩行などの基本動作を点数化し、対象者の主観や専門家による聞き取りが主体である。しかし、この方法ではバイアスや誤差が生じる可能性がある。また、測定に多くのチェックが必要であり、評価に多くの時間を要することも少なくない。一方、高齢者における身体的自立度が高い、生活動作の能力が高いということが身体全体の機能が低いことを意味すると捉え、国内外で簡便なパフォーマンステストから高齢者の能力を評価する試みがなされ、機能的体力テスト (Rikli and